

当社は、環境保全活動の基本となる環境方針を定め、これに基づき、環境保全のための改善計画を策定し、地球温暖化防止対策や、副産物の再資源化、環境汚染防止対策に取り組むなど、環境マネジメントシステムの活用により、環境リスク低減を図っています。

また、鉄スクラップを主原料とした製品づくりにより、金属資源のリサイクルに貢献するとともに、部品や金型の長寿命化・小型軽量化など環境負荷低減に貢献する製品づくりも推進しています。

環境方針

〈理念〉

我々は、地球温暖化、大気・水質・土壌の汚染、廃棄物問題などの環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、北に世界文化遺産国宝「姫路城」、南に瀬戸内海国立公園を臨む豊かな環境に立地する企業として、事業活動の全ての段階において、環境の保全に配慮し循環型社会の構築に貢献する。

〈方針〉

当社は、特殊鋼及び非鉄金属を製造・販売する工場であることを踏まえ、以下の方針に基づき環境マネジメントを実施する。

- 鉄スクラップを原料とする鉄鋼製品の製造を通じて、金属資源のリサイクルに貢献する。
- 環境関連の法律、規制、協定等を遵守するとともに、環境パフォーマンスを向上させるために、環境マネジメントシステムの継続的改善に努め、環境に影響を与える恐れのある事業活動を責任をもって管理する。
- 事業活動のすべての段階で環境への負荷を低減し、環境保全、気候変動の緩和に貢献するため、省資源・省エネルギー、副産物の再資源化・廃棄物の削減、及び汚染物質・温室効果ガスの排出抑制を推進し、また、環境負荷低減に貢献する製品を開発し、環境汚染の予防に努める。
- 環境保全活動を取組むにあたり、従業員一人一人の環境意識の啓発に注力する。
- この環境方針達成のために、環境目標を設定するとともに、少なくとも1年1回これを見直し、必要に応じて改訂を行う。
- この環境方針を全従業員に教育訓練により周知徹底させ、環境システムを確実に運営管理するために、環境管理部長を環境システム管理責任者に任命する。

ISO14001の認証取得

当社は、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、毎年の内部監査と外部審査を通じて定着を図っています。内部監査では、若手社員も監査の場に同席し、環境マネジメントシステムへの理解促進につなげるとともに、システムの改善に取り組んでいます。また、内部監査員の世代交代を円滑に進めるよう、継続的な養成にも力を入れています。外部審査では、2017年度に、ISO14001:2015年版への移行審査を受審し、環境マネジメントシステムを適切に維持実行し、有効活用されているとの評価を受け、移行が完了しています。

環境マネジメントシステム推進に向けて

環境保全委員会の開催

当社では、環境マネジメントの強化および環境リスクの低減を推進するため、環境保全委員会を毎年開催しています。環境部門を総括する役員を委員長として、製造部門の

部署長、管理部門の部署長が構成員となり、環境保全に関する基本指針の策定および基本的対策に関する事項などを審議しています。審議した内容については経営会議にて報告も行っています。

環境連絡会の開催

環境に関する情報共有の場として、1回/月、環境システム最高責任者、役員、部署長等による環境連絡会議を開催しています。会議では、以下の項目等について情報を共有し、環境リスクの低減を図っています。

- 環境パトロールにおける指摘事項の対応状況**
- 法規制の遵守評価結果**
法や協定で定められた大気、排水等の測定結果の共有化を図っています。
- 産業廃棄物処理状況及び産廃処分施設の視察結果**
産業廃棄物の処理状況及び、委託契約している業者の産業廃棄物処分施設の視察結果の共有化を図っています。
- 最新の環境法改正**

環境保全への改善計画

環境保全改善計画と2018年度実績

テーマ	中期計画(2017-2019)	2018年度実績	自己評価
省エネルギー・地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> 省エネの推進によるCO2排出量の削減(目標:2020年度にBAU※比2.6%削減) ※特別な対策をとらないケース(BusinessAsUsual) 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量:BAU比2.83%削減 大型ファンを高効率ファンへ更新 照明機器のLED化 構内給水ポンプのインバーター化 	〇〇〇
副産物の再資源化	<ul style="list-style-type: none"> ダスト、汚泥の埋立量削減 レンガくずのリサイクル率向上 	<ul style="list-style-type: none"> ダストのリサイクル業者への委託 レンガくずの耐火物原料としての利用 	〇〇
法令遵守	<ul style="list-style-type: none"> 規制基準の遵守(水質汚濁防止法、大気汚染防止法等) 	<ul style="list-style-type: none"> 全項目において規制基準クリア 	〇〇〇
従業員への教育・啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> 従業員への教育・啓発活動の定期的な実施 環境関連公的資格者数の増 	<ul style="list-style-type: none"> 地域美化活動の実施(参加人数約270名) 環境家計簿の記録(参加人数30名) 公害防止管理者資格取得者増員に向け取り組み中 	〇〇〇 〇〇〇 ○
情報開示の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境報告書の定期的発行 自治体などの環境行政への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 「CSR報告書2018」の発行、ウェブサイトでの公開 環境月間行事の取り組み実施 	〇〇〇 〇〇〇

自己評価:目標の達成度を3段階で表しています。〇〇〇:計画達成 ○〇:計画達成へ順調に進んでいます ○:計画達成に向け更なる取り組みを実施します

環境会計

2018年度の環境保全対策コストを環境省のガイドラインに従って集計しました。

集塵機・水処理施設等環境対策設備の維持管理費や副産物のリサイクル・処分費等は約33億円となりました。また、連建集塵機の設置や、省エネルギーを目的とした集塵機ファン高効率化、ポンプ電動機のインバータ化などに約4億円を投資しました。

今後も、環境保全に関わる対策を継続的に実施していきます。

分類	費用	投資
1.事業エリア内コスト	3,093	383
2.上・下流コスト	0	0
3.管理活動コスト	158	0
4.研究開発コスト	27	0
5.社会活動コスト	17	0
6.環境損傷対応コスト	12	0
合計	3,307	383

(百万円)

環境意識の啓発活動

環境保全活動に取り組むにあたり、従業員一人ひとりの環境意識の向上が重要と考え、新入社員教育や階層別環境研修会を定期的に実施しています。また、公害防止管理者等の環境保全に関する資格取得を推進するための報奨制度を設置したり、従業員による環境家計簿の作成にも取り組んでいます。

